

2024 年 10 月 28 日

下畑台小学校郷土資料室に学ぶ会
(郷土資料室地域ボランティア)

『郷土資料室』へ ようこそ！

郷土資料室では、約400の資料を展示・保管しています。

今回は、米作りに使っていた昔の農具のいくつかをご紹介します。

米作りの工程

A. 土を耕す B. 田植え C. 除草 D. 稲刈り E. 稲干し F. 脱穀 G. 天日干し H. 粃すり J. 選米

A. 土を耕す

下畑では、牛に犁や馬鋤を引かせて土を耕していた。



『シリーズ昔の農具①』農文協より



くら 【牛の鞍】

牛に犁（すき）や馬鋤（まぐわ）を引かせる
ときには、首木・鞍・尻枷（しりがせ）といっ
た胴部を取り付け、綱（つな）で結びました。
(農業一米作り2A L字棚A)



【カラスキ】

牛や馬に引かせて土起こしをした。

「日の本号二段耕犁」

二段式犁 田んぼで使用 土を上下二段同時に
耕すことで土がより薄く細かくすき起こされる。

(農業一米作り1A L字棚A)

まぐわ 【馬鋤】

牛や馬に引かせて、起こした土をくだ
いたり、代掻き作業にも使った。

「まんが」とも呼ばれていた。

(農業一米作り5A L字棚A)



B. 田植え



【田植え縄】

縄に15～30cm間隔に目印をつけ、苗をまっすぐ植えるための目安とした。
田んぼに渡し、木や竹の棒に巻き付けた縄の両端を^{なわ}あぜにさして使った。
(農業一米作り6B L字棚A)



【目籠 (苗籠)】

稲の苗束を入れ、天秤棒で担いで使う。水切りで
きるよう、又、苗束が落ちない程度に目が粗い。
(農業一米作り10B L字棚A)

C. 除草



【草おしき】(草
とりき、田打車)
柄をもって動かすこと
でツメが回転し、除草と
共に土も耕す。
(農業一米作り12C
L字棚B)

F. 脱穀



江戸時代中頃～

【カナゴキ】(カナコギ、千歯)

歯の隙間に稲穂を通して手前に引っ張ると、粃が下に落
ちる。(農業一米作り17F 東窓)



明治～

【回転式足踏み だっこくき 脱穀機】

ペダルを踏むと、こぎ歯(逆V
字型の突起)のついたドラム
が回転し粃が落ちる。
(農業一米作り18F 東窓)

G. 天日干し

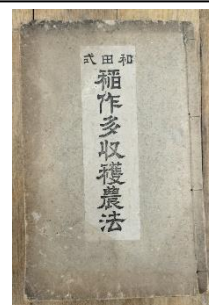


もみ 【粃さがし（えぶり）】

粃を天日干しのためむしろの上に広げる時に使った。

代掻きの後、田んぼの凸凹を平らにするときにも使用した。（農業一米作り20G 東窓）

『和田式 稲作多収穫農法』



J. 選米



み 【箕】

上下に揺すって粃や玄米からわらくずや粃殻を取り除く、選別作業に使われた。

（農業一米作り24J 東窓）



とうみ 【唐箕】

取っ手を回し内部の羽板を回すことで藁くずや粃殻を吹き飛ばす。

江戸期に中国から伝わったが、一般に出回るのは大正期。

（農業一米作り26J 東窓）



まんごくとおし せんごくとおし 【万石通し（千石通し）】

玄米を斜めに立てたふるいの上から注ぎくず米や割れ米を取り除く。

（農業一米作り27J 東窓）

これからも引き続き、展示資料を少しずつご紹介したいと考えております。
またお立ち寄りください。